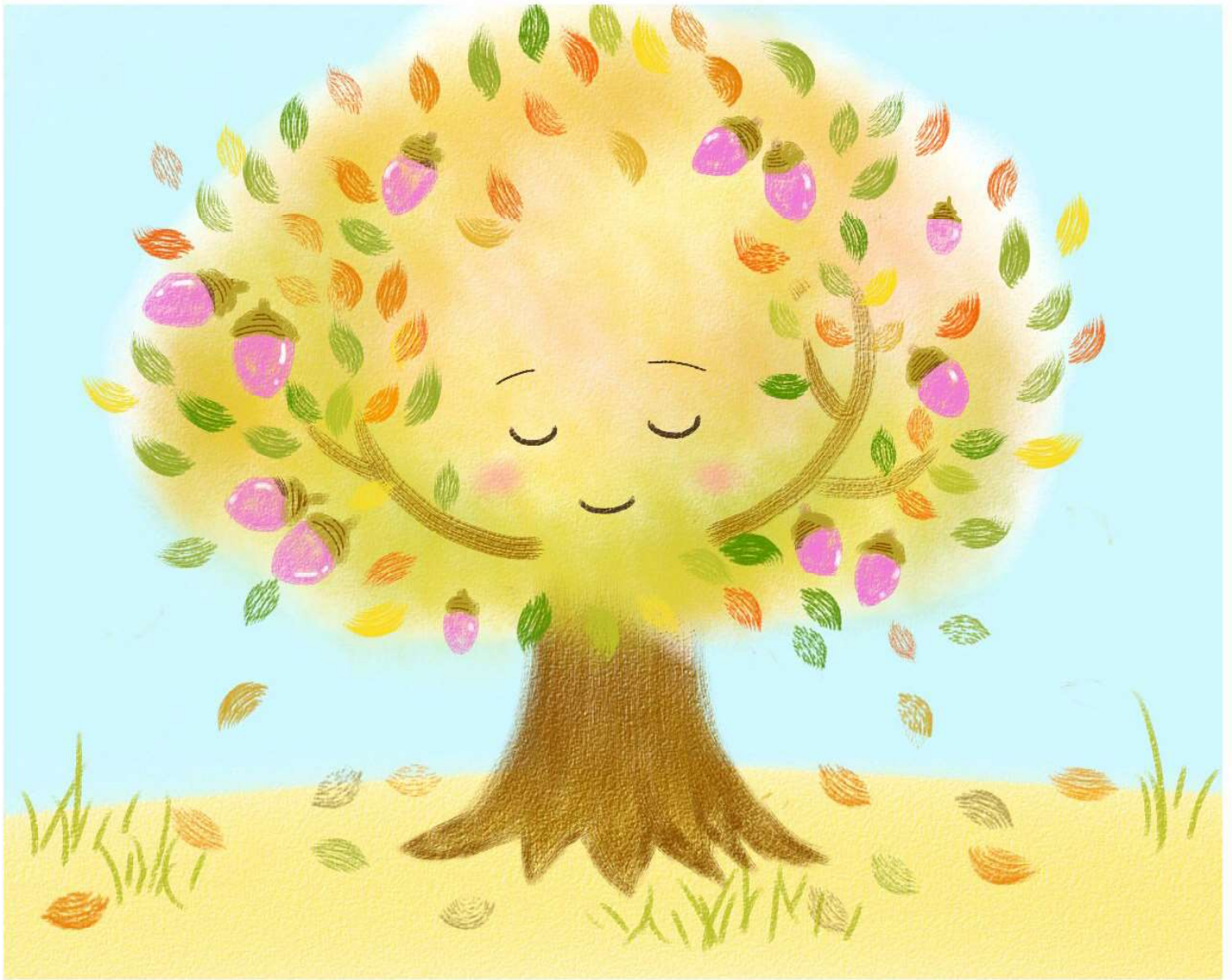


わたし、おかあさんになる

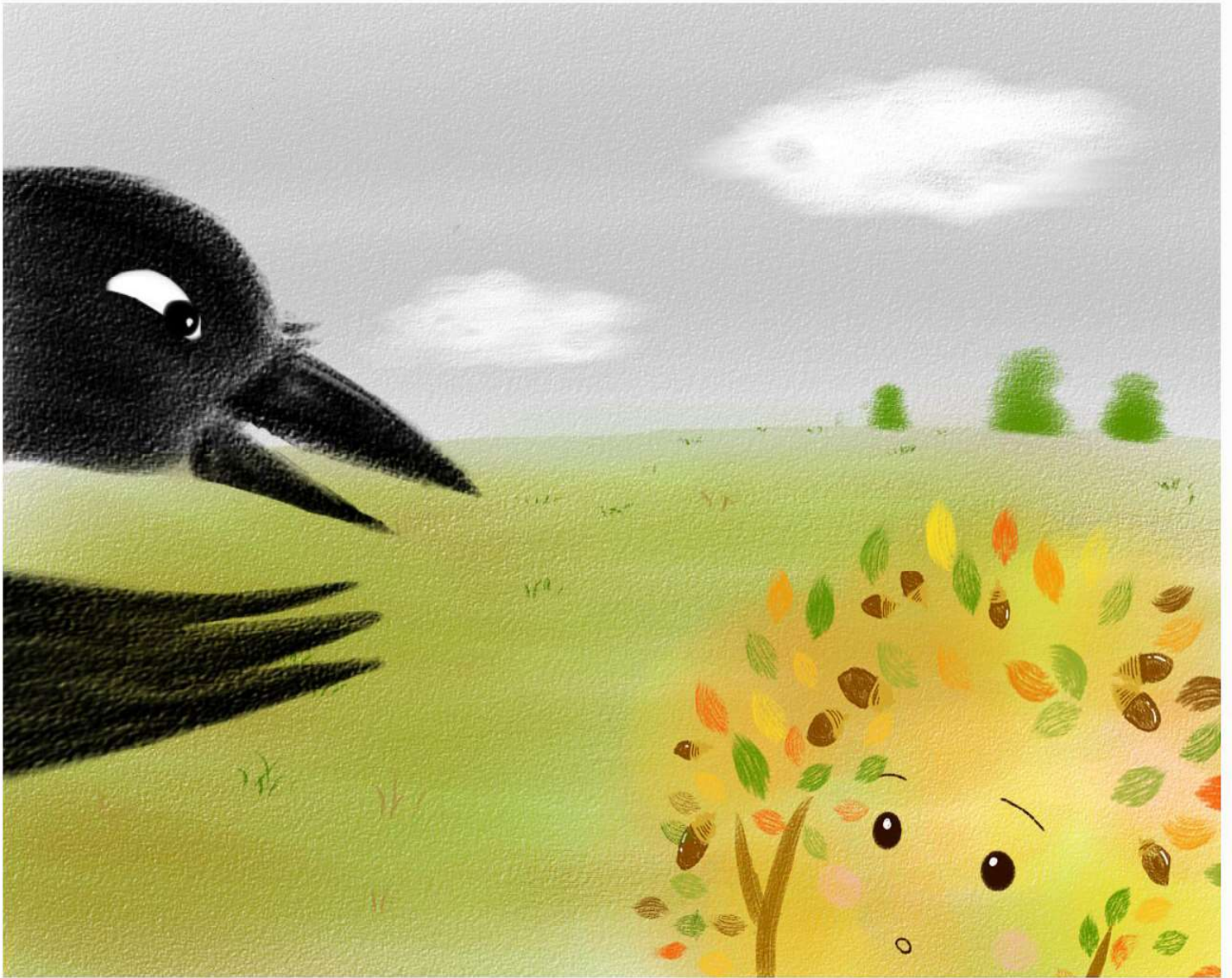




広い野原のまん中に、初めてお母さんになる  
若いどんぐりの木がありました。  
大きく広げた枝に  
ぷっくり太った茶色い実がなっています。  
送り出す日は、もうすぐそこまで来ています。



お母さんには願いがありました。  
私の大事な子どもたち。  
どうか幸せに育ててほしい、まっすぐに。  
秋にはたくさんの実をつけて  
いつもみんなが集まって 幸せを分けてあげられる  
そんな大木になってほしい。  
どうしたら、そういう木になれるの？



かー かー  
人間の子どもに運んでもらい  
鉢に植えてもらおうといいよ  
からすが教えてくれました。  
どうして、どうして？

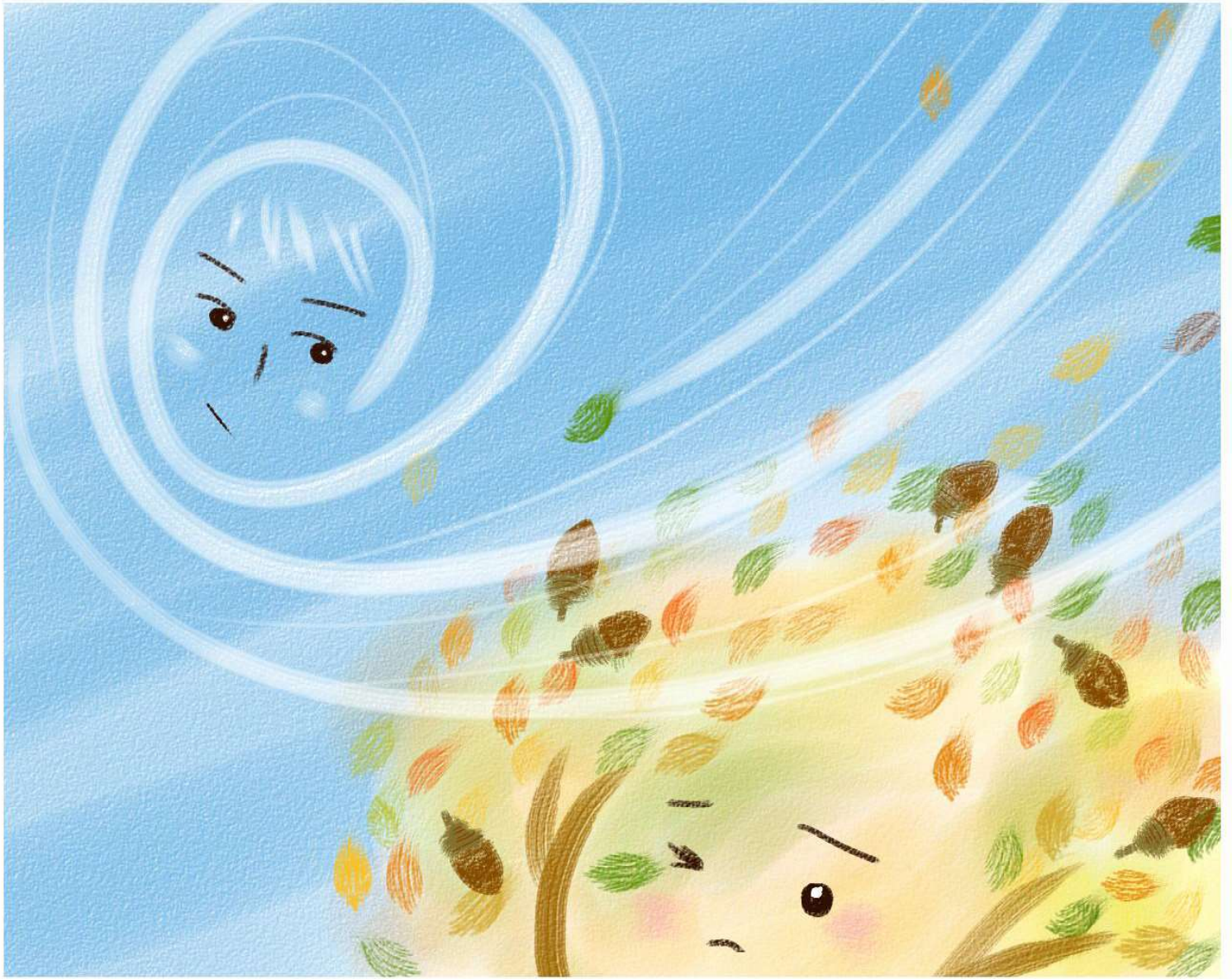


栄養たっぷりふりかけて。  
寒い冬も心配要らない。  
暑い夏には、たっぷりお水もくれるのさ。

誰より早く芽を出して  
ぐんぐん背も伸びるだろう。

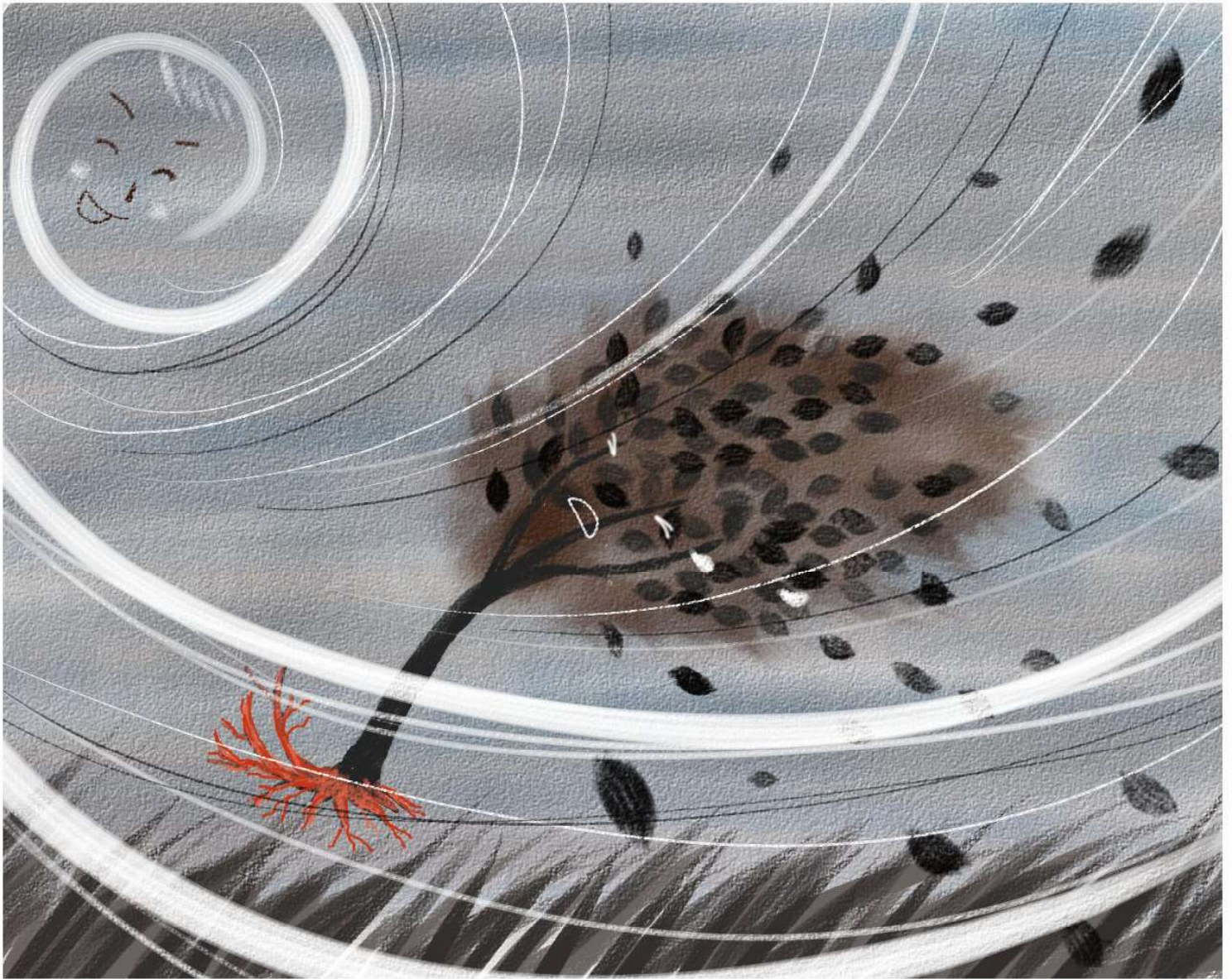


それで、それでどうなるの？  
きっと実がなる日は早く来る。  
まあ、素敵。



びゅーん びゅーん

風がやってきて教えてくれた。

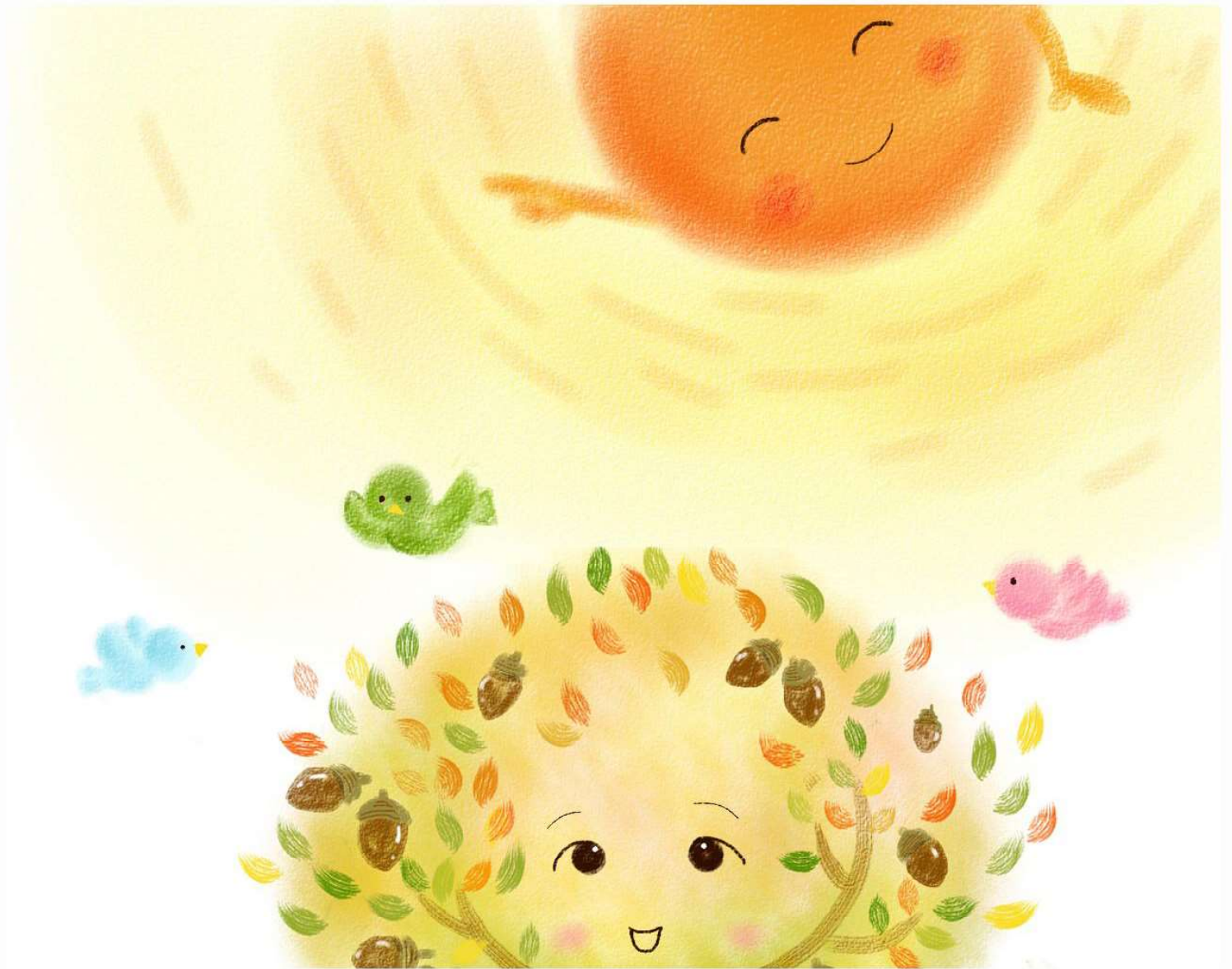


温室育ちは私のほんのひと吹きで  
あっという間に倒れるぜ。  
守ってくれる風よけないと  
ひっくり返ってもう立てない。  
あっと間に枯れていく。





困った、困った  
どうしよう・・・



にこ にこ にこ  
おひさまが優しく微笑んだ

遠く離れたお山にね  
とっても素敵な森があるの。  
小鳥に運んでもらいなさい。



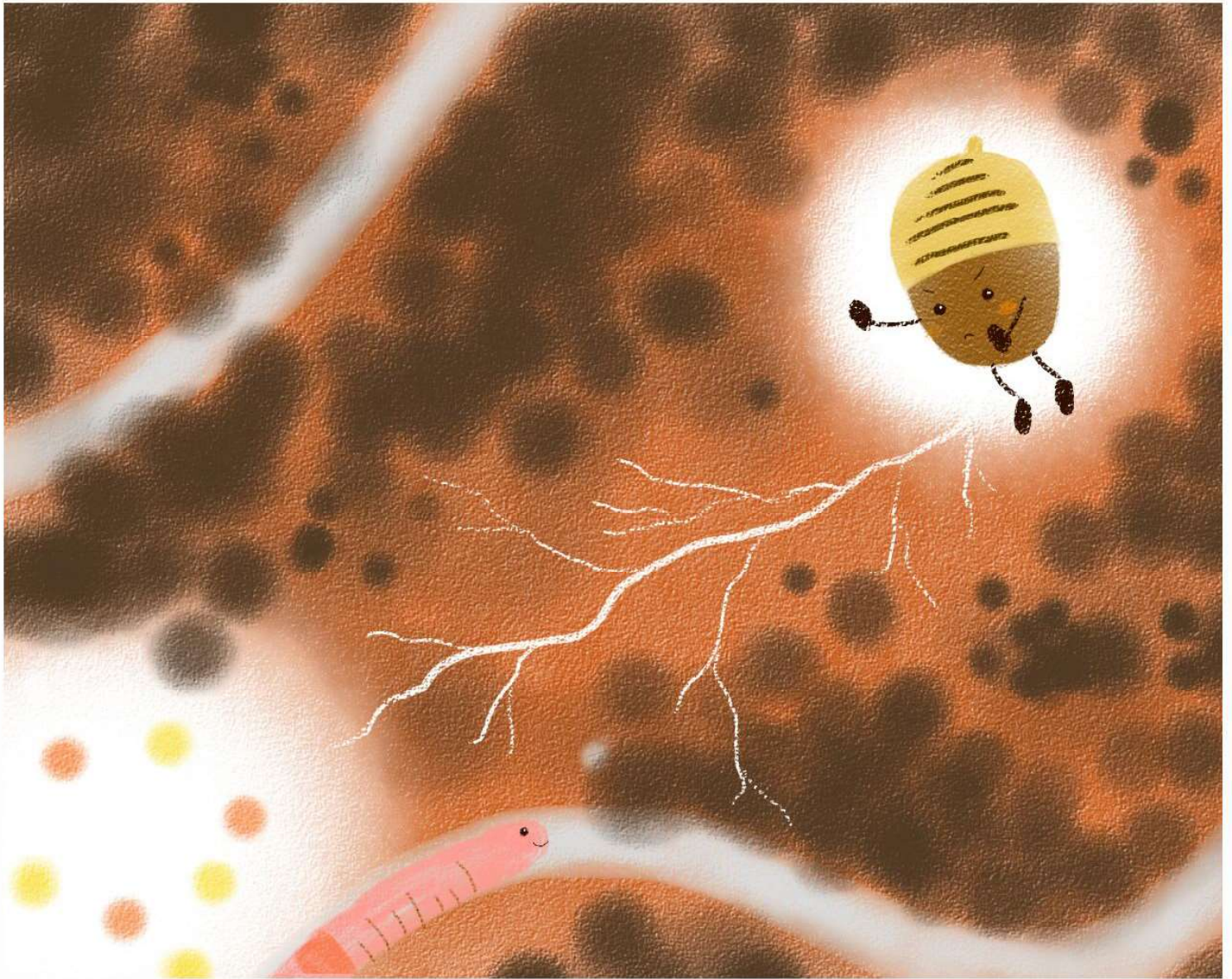
でも、そこへ行ったらどうなるの？

私には見えない、守れない。



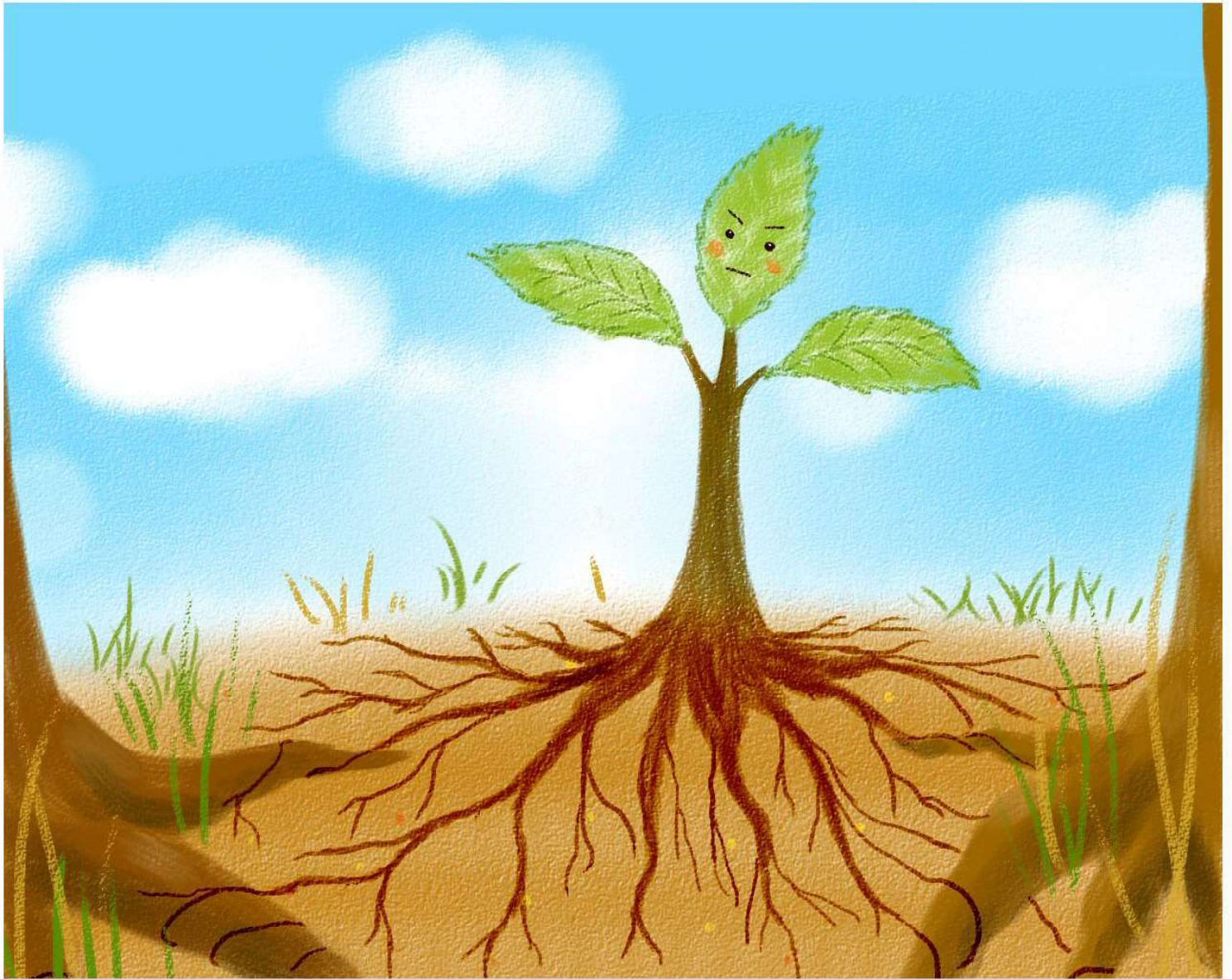
落ち葉の布団にくるまって  
春が来るのを待つんだよ。

寒さでちょっとつらくても  
身体に力をためこんで



じっくり待って根をはやし  
遠くへ遠くへ根を伸ばす。

おなかですいて目を覚まし  
それでも遠くの栄養めがけ  
踏ん張りもっと根を伸ばす。



根っこと根っこは絡まって  
ちょっとやさっとじゃ倒れない。  
日照がきても土の奥  
たくさん栄養吸い込んで  
そして、森は1,000年つづく。



かわいい かわいい子どもたち。

さあ、お行き。

